

**専門性に磨きかける
JABME 設備女子会**

建築設備技術者協会（JABME）の「設備女子会」（徳弘洋子会長）は26日、東京都渋谷区のアイビーホールで第7回交流会を開いた。ゼネコンや建築設計事務所などから会員35人が参加し親睦を深めた。

設備女子会は、女性設備技術者の情報交換・情報発信などを目的に2012年11月の「建築設備士の日」に発足した。今回は、三菱地所ビル運営事業部の上田早紀副主事の乾杯の音頭で会が始まった。懇親会では、大林組で長年にわたり設備設計に携わって



きた林聡子さんが「わたしの仕事」と題してプレゼンテーションした。入社から結婚、出産、復職に至る経緯について紹介し、「子育てと並行しながらどんな仕事に携わるのか、自分の立ち位置や得意分野について選択の連続だった」と振り返った写真。

特に復職時に携わる業務が重要になると指摘し、専門性に磨きかけることが将来の発展的な仕事につながるという。

日刊 建設通信新聞 2015年6月30日（火）

「設女会」都内で第7回交流会 JABME

建築設備技術者協会（JABME）の「設備女子会」（設女会、徳弘洋子会長）は6月26日、東京都渋谷区のアイビーホール・フィリアで7回目の交流会を開いた。設計事務所やゼネコン、設備工事会社、団体などさまざまな職場で活躍する女性35人が参加。大林組設計本部設備設計部の林聡子さんが「私のしごと」と題して仕事や日々の過ごし方などを紹介し、参加者と意見を交わしながら交流を深めた。写真。

活躍する女性35人参加

林さんは、出産と育児休業後の生活スタイルの変化と対応、会社への復帰を決めた動機、時間に制約がある中での仕事のやり方などを紹介し、「際を守りながら仕事をこなす上で、後輩の指導や、仕事先でのチーム対応に頭を悩ませた」と話した。

設女会は、女性技術者が情報交換・発信を通じて活躍の場を広げ、社会に「貢献意識」をいかにとることを目的に、12年11月18日の「建築設備士の日」に発足した。現在、約300人が参加している。



日刊 建設工業新聞 2015年7月3日（金）

**設備女子会を開催
プレゼンなど盛り上がり**

建築設備技術者協会が活動の一環として立ち上げた設備女子会（徳弘洋子会長）の交流会が26日、東京・渋谷区のアイビーホール・フィリアで開かれた。写真。会には、建築設備業界で働く35人の女性が出席し、親睦を深めた。

会では、恒例にもなっていた「わたしの仕事」をテーマにしたプレゼンテーションを開催。大林組設備設計部の林聡子さんが登壇し、入社以来の仕事内容はもちろん、プライベートも包括したライフスタイル全般にわたってのプレゼンテーションを行った。林さんへの質問も活発に飛び交い、会は盛況のうちに幕を閉じた。



日刊 建設産業新聞 2015年6月30日（火）